

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0391500030		
法人名	株式会社 奥州ケアサービス		
事業所名	グループホーム 奥州		
所在地	〒023-0065 岩手県奥州市水沢区水山4-1 (電話) 0197-25-6201		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7-30		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(平成20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.71 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	おむつ代その他実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	81.9 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥州市総合水沢病院、大手町歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所には、近接して一般住宅のほか小学校や高校、公民館等があり、人通りや交通も比較的多く賑やかな環境の中にある。風力発電利用等環境に配慮され、かつ開放的な雰囲気のあるホームは、行き交う人たちの立ち寄りや行事等への誘いも多くあり、地域の中のホームとして理解され定着してきていることがうかがえる。職員は「利用者ができないところを援助する」という利用者本位の考えのもと、利用者との馴染みの関係が築かれ、開所以来、職員の離職異動も無く、利用者職員と職員がしっかりと支えあいながら、ともに穏やかな表情で明るい生活が実感できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価時に課題とされた職員を育てる取り組みについて、必要な研修に参加できるよう勤務体制の調整を図るほか、外部研修の結果を活用した内部研修や、マニュアルづくりのための勉強会などを行い、全職員に還元できるような取り組みを行っている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員の意見等を聞きながら、管理者とケアマネがとりまとめた自己評価を回覧周知している。また評価の意義や目的の理解は着実に深まっており、前回評価後、身体拘束廃止のマニュアル整備に取り組み、さらに内部研修に活用して取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	隔月に定期的に開催しており、ホームの活動状況や職員の研修状況などの報告、意見交換のほか、時々テーマを設けて幅広く協議している。また、ホームの行事には委員の協力を得て実施している。今後の取り組みについては、利用者自身の意向や思いを共有するため、利用者の会議への参加を検討している。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は設けられていないものの、行事の際に意見交換の場を設けたり、家族アンケートを実施したりしながら、意見等を得て運営に反映させることとしている。このほか意見箱の設置、面会記録を活用した独自の工夫を行い、プライバシーの保護に配慮して家族や友人等面会者からいつでも気軽に苦情や提言を得られるよう環境を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	行き交う地域の方々や保育園児等とのふれあい、地区の草取りや運動会等多くの行事への参加や見学のほか、回覧板は利用者職員と一緒に回すなど日常的な付き合いを深めている。特にも、ホームで開催する夏祭りには、多くの方々の参加があり、地域行事としても定着しつつある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、地域と共に暮らし、人として尊厳ある生き方を支援します。○地域の四季折々の自然・伝承を大切にします。○個人の時間を大切にします。○安全・衛生面を保った環境作りをいたします。」との理念を職員が話し合っ作り、住みなれた地域で利用者の自己実現を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現は日々のケアの積み重ねという考えのもと、毎日のミーティングやスタッフ会議において話題にして、その共有を図りながら、利用者一人ひとりの具体的な日々のケアに努めている。また、周辺の散歩や行事参加等を通して、地域交流を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行き交う地域の方々や保育園児等とのふれあい、地区の草取りや運動会等多くの行事への参加や見学のほか、回覧板は利用者と職員と一緒に回すなど日常的な付き合いを深めている。特に、ホームで開催する夏祭りには、多くの方々の参加があり、地域行事としても定着しつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員の意見等を聞きながら、管理者とケアマネがとりまとめた自己評価を回覧周知している。また評価の意義や目的の理解は着実に深まっており、前回評価後、身体拘束廃止のマニュアル整備に取り組み、さらに内部研修に活用して取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に定期的開催して、ホームの活動状況や職員の研修状況などの報告、意見交換のほか、時々テーマを設けて幅広く協議している。今後の取り組みについては、利用者自身の意向や思いを共有するため、利用者の会議への参加を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議等の参加時に意見交換を行うほか、定期的に利用者と一緒に担当者を訪れ、広報を渡してホームへの理解を得る工夫をしている。また電話による相談等を普段から行いながら連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームで発行する広報紙に手紙と写真を添えて、利用者の暮らしぶりや近況をお知らせするとともに、状態変化時等は必要の都度、家族と連絡を取り合っている。また預かり金はなくホームで立替払いにより対応しているが、利用料請求書送付時にレシートを添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けられていないものの、行事の際に意見交換の場を設けたり、家族アンケートを実施したりしながら、意見等を得て運営に反映させることとしている。このほか意見箱の設置、面会記録を活用した独自の工夫を行い、家族や友人等面会者からいつでも気軽に苦情や提言を得られるような環境を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで異動は行われておらず、新任の職員が加わる場合には、習慣について利用者から教わるなど、支え合う関係を自然に築くことで、利用者とのスムーズな関わりに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれが必要な研修へ参加できるように、勤務体制の調整を図ることとしている。また研修や勉強会等へ参加した際には、復命するほか、スタッフ会議等で伝達共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の県またはブロックで行われる定例会や勉強会に職員が交代で参加することにより、他のホームの取り組み等を知るとともに、親睦交流の機会となっている。そのネットワークを活かして、普段においても電話等で、意見や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が来所見学して、納得してからサービスを開始することを基本としている。本人が納得しきれない場合には、その状況に合わせて家族と話し合いながら、時間をかけてその心の安定に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の体と心を動かすような活動を支援することを重視しながら、よもぎ餅づくりなど季節の行事や食事、掃除の家事分担、ドライブなど、職員と利用者が一緒に行うことを通して、互いに感謝し、励まし合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始前より利用者や家族から意向を確認するほか、日常の関わりの中から利用者の意向等を把握している。その方法として、会話の内容や行動、表情などを「会話記録」に記載して、職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス開始前に本人及び家族との面談から意向等を確認するほか、必要に応じてこれまで本人に関わった他事業所から情報を得て、計画を作成している。またカンファレンスを通じて、職員の気づきや意見を反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングから3ヶ月毎に評価を行い、利用者の個性等を反映した個別援助計画を作成している。また利用者の状況変化に応じて、その都度計画の見直しを行っている。さらに、家族に対して個別援助計画で説明しながら、意見等を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や食事会、理美容やドライブなど、利用者一人ひとりの思いや希望に応じた外出支援を行うほか、容態急変等の際の通院支援についても、職員が対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医への受診を行っており、通院は家族同行を基本としているが、利用者の普段の様子を伝えるために職員がかかりつけ医宛てに状況報告書を作成して、円滑な受診となるように支援している。また利用者の体調の変化等気づいた事を連絡して、医師から助言指示を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化等について、今すぐ考慮しなければいけない利用者はいないものの、今後のホームの重要な課題としてとらえられており、その対応マニュアルの作成や職員の情報共有のための勉強会等、その機会を設けることとしている。	○	重度化等への対応について、ホームとしてできること、できないこと等を整理しながら、職員間で研修や意見交換を重ねて、その方向性等の情報を共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴時や排泄時等については、特に利用者一人ひとりの尊厳や羞恥心への配慮を心掛けて、目での合図や声がけなどを工夫しているほか、言葉遣いについて職員相互に確認している。このほか個人情報の記載された記録等は、鍵の掛かる書棚等に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方について、利用者はベンチに腰掛ける人や畳の間で過ごす人など様々であり、好みの場所でくつろいでいる。ドライブや地区の行事に出かける際には、利用者へ声掛けして意向や体調等を確認したうえで参加を促している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングには毎日の献立が分かりやすいように大きく掲示されている。献立は旬の食材や畑で育てた野菜をとり入れて立てており、調理や後片付けなど利用者と一緒にやっている。利用者と職員は席を並べて、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	鉱石入りの湯を利用しながら、あるいは職員との会話や歌によって利用者が気持ち良く入浴できるように支援している。また1日おきに入浴することを目安としながらも、利用者の希望により、毎日入浴することができるなど、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や踊り、ぬり絵など利用者それぞれの好みや得意なことを行い、楽しみを持って過ごしている。また食事づくりや掃除の手伝いなどの役割を行う際には、利用者自身がやりがいを実感することや自信を持つことを大切にして、職員は感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が同行しての買い物、ドライブや散歩などのほか、利用者家族や友人の誘いによる外出など多様な外出支援を行っている。ホームの近くには交通量の多い道路が通っているため、利用者が出かける際には職員が付き添い、安全に配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	来客等の確認のため玄関にチャイム設置しており、夜間を除き鍵はかけていない。居室のドアに鍵が取り付けられており、就寝時等に鍵をかけている利用者はいるが、必要時には外から開錠できるつくりになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下で、避難訓練を年に2回実施している。利用者や職員だけでなく、運営推進委員や、区長、町内会長、そして近隣住民等多くの参加協力を得て、災害時に備えている。	○	災害対策において、地域の方々の協力は非常に心強いものと思われる。今後さらに、具体的な役割分担を図るなど協力体制の充実が期待されるとともに、夜間想定訓練等の安全対策を強化することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、嗜好等については、毎日業務日誌に記録して共有しており、特に不足しがちな利用者については、目配り・声かけでその確保に努めている。なお献立については、栄養士資格を有する職員及び医師の助言を得ながら、職員全員で献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から明るくやさしい日差しが差し込む広い空間の中、リビングからは利用者の居室が見渡せるように配置されている。またベンチや、コタツがある畳の小上がりなど談話コーナーがあり、利用者がそれぞれの落ち着く場所で過ごすことのできる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやテレビ、日頃から使い慣れた時計や手鏡など日用品が整理されて置かれている。このほか、家族の写真や人形などの身近なものを持ち込み、思い思いに飾っており、快適に住まいしていることがうかがえる。		